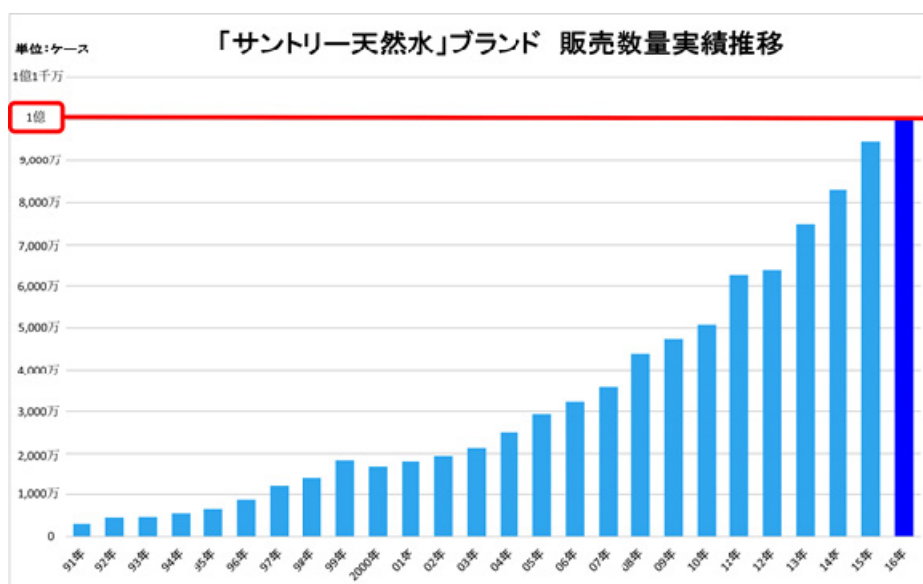


受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

<p>平成25年度 農林水産大臣賞 「事業所・地方公共団体等」分野 受賞</p>	受賞者名	サントリー食品インターナショナル株式会社
	所在地	東京都中央区
	受賞テーマ	植物由来原料を 30%使用した独自開発の国産最軽量ペットボトルの導入

1. 活動継続 あり

2013年5月に「サントリー天然水」ブランドがリニューアルする際に、植物由来原料を30%使用した独自開発の国産最軽量（11.3g）ペットボトルを550ml（自動販売機対応商品を除く）に導入した。「サントリー天然水」ブランドは、近年の健康志向の高まりの中、幅広いお客様にご支持いただき、2016年には年間販売数量がブランド計で1億ケースを達成した。1991年の発売以来、販売数量の伸長を続けてきた、ミネラルウォーター市場21年連続NO1ブランドへと成長している。



2. 活動の広がり及び進化 あり

2016年春に植物由来原料を30%使用した飲料用ペットボトルキャップを「サントリー 阿蘇の天然水」(550ml)で世界で初めて導入し、2016年秋には「サントリー 南アルプスの天然水」(550ml 自動販売機用)で、植物由来原料を30%使用した、国産最軽量となる1.85gの飲料用ペットボトルキャップを導入した。(2.05gから1.85gへと約10%の軽量化を実現)

当社は、「サントリー天然水」550mlのペットボトル・キャップ・ラベル全てで環境に配慮したパッケージを採用し、日々進化させている。



- 「2R+B」戦略について

サントリーグループは企業理念「人と自然と響きあう」に基づき、最高品質の商品・サービスをお届けするとともに、持続可能な地球環境を次世代に引き継ぐためにさまざまな環境負荷低減活動を行っている。ペットボトル容器に関しては、サントリー独自の「2R+B」戦略に基づき取り組んでいる。

ペットボトル開発において、樹脂使用量の削減と再生素材の使用により徹底した資源の有効利用を図りつつ、可能な範囲で石油由来原料を再生可能原料で代替していく考え方（Reduce・Recycle+Bio）である。Reduce（リデュース）ではボトル本体だけでなく、ラベルやキャップを含めた徹底した軽量化を推進、Recycle（リサイクル）ではわが国で初めてボトル to ボトルのメカニカルリサイクルシステムを構築、Bio（バイオ）では「サントリー天然水」（550ml）に植物由来原料を30%使用したペットボトルをすでに導入している。

3. 今後の計画

- 植物由来原料100%使用ペットボトルの開発について

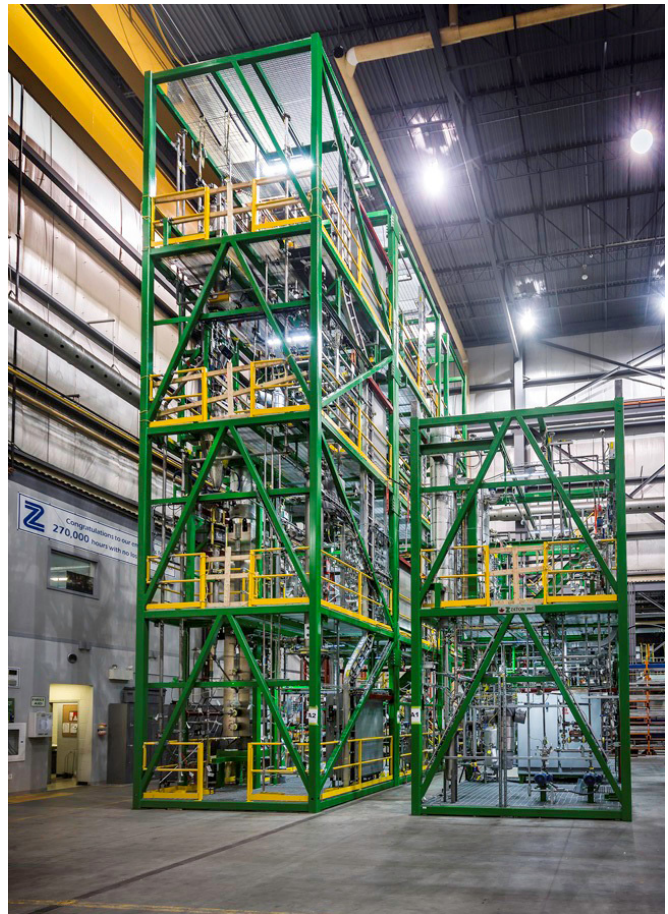
サントリーグループは、既に実用化している植物由来原料30%使用ペットボトルの開発技術（※1）と、新技術（※2）を組み合わせ、植物由来原料100%使用ペットボトルを開発予定。

※1 ペットボトル原料の30%を構成するモノエチレングリコールを植物由来原料から生成。

※2 ペットボトル原料の70%を構成するテレフタル酸の前駆体「パラキシレン」を植物由来原料（非食用）から生成。

サントリーグループは、米国バイオ化学ベンチャー企業・アネロテック社（※3）と2012年より、植物由来原料100%使用ペットボトルの共同開発に取り組んでいる。両社は、ペットボトル原料の70%を構成するテレフタル酸の前駆体「パラキシレン」を、食料用原料のサプライチェーンに影響が出ないように、非食用の植物由来原料（ウッドチップ）のみから生成することを目指し、昨年より実証プラントにて実用化に向けた開発を進めている。

※3 2008年創業。米国ニューヨーク州パールリバーに本社・研究開発機能をもつバイオ化学ベンチャー企業。非食用の植物由来原料から石油精製品と同一性能を持つベンゼン・トルエン・キシレン（キシレンの一種が「パラキシレン」）を生成する技術開発を進めている。



（実証プラントの一部）

【表彰概要】

同社は、3Rの考え方にもとづいた容器包装の環境負荷低減に取り組んでいる。容器包装がもたらす社会的影響を強く認識し、1997年に自主基準「環境に係る容器包装等設計ガイドライン」を設定。お客様の飲用時からリサイクル処理を行うまでのユーザビリティに配慮しながら、軽量化やより環境負荷の少ない素材の採用、さらにはリサイクル処理しやすい設計に取り組んでいる。

植物由来原料を30%使用した独自開発の国産最軽量ペットボトルの導入

2013年5月より、国産最軽量^{※1}の11.3gとなる独自開発ペットボトルを「サントリー天然水」550ml（自動販売機対応商品は除く）に導入。すでに2013年2月より2Lには国産最軽量となる29.8gのペットボトルを導入しており、これにより大容量・小容量ともに国産最軽量を実現。さらに、豊田通商（株）のサプライチェーンを活かし、植物由来原料の安定的な調達が可能となり、常に原料の30%が植物由来原料となるペットボトルの製造が実現。同550mlのペットボトルに採用。これらの取り組みにより、石油由来原料の使用量を550mlペットボトル1本あたり約4割削減することができた。

※1 国産ミネラルウォーターペットボトル（500ml～600ml）対象 2013年3月時点

<国産最軽量ペットボトルの開発>

2013年2月より、国産2Lペットボトルで初めて30g以下のボトル重量となる29.8gのボトルを採用した「サントリー天然水」2Lを上市。従来の2Lペットボトルを約2割軽量化。5月より、「サントリー天然水」550mlのボトルを13.5gから11.3gに軽量化し、大容量・小容量ともに国産最軽量を實現。軽量化することで、飲用後により簡単に手でつぶせるペットボトルとなった。また、ラベルはロールラベルを採用しており、端にある「はがし口」をつまむと、ボトルから簡単にはがせ、リサイクルのことを考えた分別しやすい設計となっている。

<植物由来原料の活用>

豊田通商（株）のサプライチェーンを活かし、植物由来原料の安定的な調達が可能となり、常に原料の30%が植物由来原料となるペットボトルの製造が実現し、「サントリー天然水」550mlペットボトルに採用。

（写真）「サントリー天然水」550ml ペットボトル

